

(令和5)年度市政懇談会 開催結果概要

- 日 時 令和5年7月27日(木)午後3時00分～
- 会 場 阿寒湖まりむ館
- 参加者 15人

〔市長より説明 (別途資料参照)〕

- (1) 釧路市の防災の取り組みについて
- (2) 市立釧路総合病院の新棟建設事業等の進捗について
- (3) 都心部まちづくりについて
- (4) ATWS (アドベンチャートラベルワールドサミット) について

●質疑応答

【参加者A】

釧路市民にとって三次医療圏の総合病院の確保は大変有意義な事であると思えます。私も一市民として市立釧路総合病院の新棟建設は早期に見通しを立てた上で、着実に実行してほしいと思えます。それに関連して、阿寒湖温泉の医療体制についてお伺いします。阿寒湖温泉には阿寒湖畔診療所・阿寒湖畔歯科診療所があり、阿寒湖畔診療所は北海道の所管、歯科診療所は釧路市所管と承知しています。どちらの病院も、医師と地域の皆様との信頼関係は素晴らしいものがあります。この地域には住民基本台帳上、1,200人ほどの住人がおり、住民票は移していないものの、地域で働いている方を含めると、1,400～500人ほどの人口となっています。その他、観光客のお客様も一番多い時で100万人近くいました。阿寒湖温泉は釧路も北見も車で約90分という所にあり、一時的な処置をするにはこの2つの施設は重要なものと思われませんが、どちらの施設も老朽化が激しく、医療機器も十分ではないと認識しています。タイミングや所管の問題等があるかと思いますが、2つの施設について総合的に考え、早期に改築や新たな機器の導入を行っていただきたい。釧路市か北海道、どちらかが所管となり、片方がサポートする方法や医療法人に委託する方法等、様々あるかと思いますが、地域住民や観光客の安全・安心のためにも、これらの2つの施設を1つに改修するなど、いい形で残していただける方策について、早急にご検討いただきたいと思えます。

もう一点、インバウンドの回復に伴い、11月上旬に台湾を訪問する準備を釧路市中心にやっていただき、一体となってプロモーションできることに大変感謝しています。春節が早まり、今年の1月中旬から2月まで、台湾からの観光客が非常に好調でした。その他、閑散期を含めて一定の旅行団体に来ていただいております。市の尽力のおかげだと考えています。そこで、今、コリアンガールの中でゴルフの需要

が非常に高いと聞き、私も調べてみました。韓国の若い女性が1週間から10日単位で朝から夜までゴルフをし、宿に泊まるというツアーが、新千歳空港を中心に札幌圏に集中していると聞いています。是非とも釧路空港に降りて頂き、韓国に対しての売り込みを市と地元でともにやっていければと思います。日韓の政府間の関係が良くなっており、韓流やKポップの影響で日本人女性が韓国に行っていることを併せて考えると、韓国から来ていただくばかりではなく、相互に経済的なつながりも出てくるものと思います。今年の秋までの仕込みとなると難しいかと思いますが、来年の仕込みに向けて早めに手を打つことは、コリアンガールの取り込みに必要と考えます。道内の空港が北海道エアポートの一元管理になりましたが、検疫など、様々なこと考えると、どうしても新千歳空港に観光客や航空便が集中してしまいます。釧路空港の国際化にご尽力いただいているのは、十分承知しておりますが、そのような部分も含め、上手に連携を取りながら、こちらからのサポートや、方策について知恵を借りながら進めて行ければと思います。

【市長】

病院機能については必要不可欠だと思っています。阿寒湖畔診療所は北海道が所管であり、阿寒湖畔歯科診療所は釧路市が所管であるため、2つの施設の整備については、合築を含め北海道と連携できないか模索している所です。どうしても医師確保の問題があり、北海道の力は非常に強いという所もありますので、そこは北海道を頼っていき、歯科診療所は市が見ていく形で、横の連携を取りながら進めていければと思います。今後の対応については構想段階であり、現場の意見を聞き、どう地域の医療体制を維持していくのかを第一に据えて、対応を加速していきたいと考えています。

2点目のインバウンドの対応です。11月の台湾のイベントについて、よろしくお願ひします。今年は11月14日に北陽高校の生徒たちが、修学旅行で台湾の高校と交流しますので、しっかり台北の文山区と連携を深めていきながら行ってきたいと考えています。コリアンガールのゴルフの話は認識しておりませんが、情報取りながら進めていきます。どのような対応すれば良いのかは、専門の方のお知恵を頂きながら、様々な所で連携していくことが必要だと思っています。どのような戦略で進めていくかについては、現場の方々の意見聞きながら進めていきたいと思っています。

【参加者B】

まず、阿寒湖温泉のお客様は、コロナ前の約7～8割ほど回復してきています。インバウンドについても台湾のお客様を中心に以前に近づいている状況ですが、道央圏の方に目を向けると、一番多いのが韓国のお客様で、それに比べて、道東は韓国のお客様が少ないです。一般に言われている原因として、韓国のお客様は他の国の人と比べると、バスに乗って長い距離を移動することを嫌うという事で、どうしても新千歳空港に飛行機が入っているため、札幌・道央近辺を移動するとなかなか

東の端まで来ていただけないということがあります。以前は釧路市からもご支援をいただき、韓国から釧路空港にチャーター便を飛ばしていただいていたのですが、今はそれが無くなってしまい、なかなか道東を回るコースの造成ができない状況です。韓国からの観光客を担当する関係者から、是非、釧路空港にチャーター便を飛ばすための支援を市としてお願いしたいというお話が、我々旅館の方に来ております。来年の夏にむけて、韓国からのチャーター便誘致に対して釧路市からの支援をお願いしたいと思います。

もう一点は、同じく空港関係ですが、以前は通年で飛んでおりました大阪からのピーチ便が夏の季節運航になっています。決してお客様の乗車率が悪いとは聞いておりませんので、なぜ夏場だけになったのか不思議に思っています。是非またピーチ便が通年運航できるよう航空会社に要望していきますので、釧路市も何かご支援して頂き、一緒に航空会社に対してアプローチをしていただければと思います。

【市長】

定期便やチャーター便の確保は重要だと思っております。航空会社については、コロナ禍の状況の中、会社としての体力も失われており、今は体力回復をしている状況です。限られた飛行機の台数を、国内から海外に移しながら進めているため、季節便運航となってしまいましたが、通年運航の再開を目指し、話を進めている所です。コロナ禍前に新規のLCCを定着させていく仕組みがありました。コロナ禍で全てだめになってしまい、この仕組みを再開しようと北海道にも相談しました。なんとか路線を確保するという事に注力し、しっかり頑張っていきたいと思っております。

また、先ほど台湾のプロモーションの話も頂いて、北陽高校の話もしましたが、海外の航空会社にもしっかりプロモーションを含め営業活動を行い、定期便の拡充に向け取り組んでいきますので、一緒に進めていければと思います。

その上で韓国のチャーター便については、以前、韓国からの定期便を目標に、まずはチャーター便の運航を開始しましたが、定期運航にはつながらず、スポット対応となってしまいました。韓国の観光客が増加傾向にある事はニュース等で聞いておりますが、不安定な状況である中、しっかりとアプローチを行っていくのか、スポット対応をしていくのか、手法については相談しながら進めて行きたいと思っております。

【参加者C】

阿寒湖には阿寒湖原産のヒメマスがいます。ヒメマスには「カパチエプ」という正式なアイヌ語があるのですが、世間ではヒメマス「チップ」と間違った使われ方をしています。船のことをアイヌ語で「チップ」といい、魚のことを「チップ」といいます。この2つのアイヌ語が混ざってしまい、ヒメマスのことを「チップ」という間違った使われ方をしています。

阿寒湖にはチップ川という川が流れており、是非正式なアイヌ語が使われること

を希望します。

また、積極的にアイヌ政策に取り組んでいる釧路市は、先住民族政策の先進国であるノルウェー・カナダ・アメリカ・ニュージーランド・台湾などとアイヌ民族とともに視察や交流を行って、学びや意見交換ができるように希望しております。併せて、道内の中でも釧路市はアイヌ民族観光が盛んですので、2年ごとに開催されている世界先住民族観光サミットに毎回参加されることを検討いただきたいと思います。

【市長】

チップ川は釧路市が管理しており、名称の取扱いについては把握していませんが、正式なアイヌ語は重要であると考えているので、どのように進めるか確認します。

釧路市におけるアイヌ施策の取り組みについて、阿寒湖畔と釧路市とで連携して進めるものもあれば、アイヌ協会と連携するもの、他地域と連携するもの、北海道全体と連携するものなど、やり方は様々あるものと思います。釧路市としてはこれまでもカナダのバーナビーやニュージーランド、台湾などと様々な交流をしてきたところです。そういった今までの積み重ねも踏まえ、どのように北海道全体でアイヌ文化を発信していくのかを計画し、その中でそれぞれの地域が地域特性を出しながら進め、それを海外に向けて発信していくことが一番良い形かと思っておりますので、相談しながら進めて行ければと思います。

先住民族の観光サミットについて、どのように参加するのかは一地方、一エリアだけで考える話ではなく、全体の情報を取りまとめることが必要ですので、北海道に相談しながら進めていきたいと考えております。

【参加者C】

2018年にニュージーランドで世界先住民族観光サミットが開催された際、内閣官房アイヌ総合政策室から北海道アイヌ協会に問い合わせがありましたが、北海道内でアイヌが観光に携わっている地域が少なく、返事が遅れていました。そのため、直接阿寒に連絡があり、参加要請を受けたところでありました。その筋道をどうしていくのか一緒に考えたいと思います。

【市長】

評価が高いのはありがたいことです。その上で、全体の仕組みを整える必要がありますので、今後、相談しながら進めてまいりたいと思います。

【参加者D】

釧路市としてふるさと納税を増やす取り組みを進めていると思いますが、どのぐらい増えたのか。また、使い道について教えてください。

【市長】

昨年度ふるさと納税は18億円で、目標の20億円には少し届きませんでした。今年は27億円を目標としており、使い道についてはふるさと納税をする際に、地

域振興など複数項目の中から選択できるような仕組みとしています。

ふるさと納税については昨年度からコンソーシアムを組み、大手のノウハウをいただきながら進めており、今年度は2年目となります。

ふるさと納税により、本来、都会の都市に入るはずだった税金が、地方都市に流出している状況にあり、今後、都会の都市も工夫をしていくことが考えられます。釧路市としては、地域の飲食やお土産購入に使用することのできる地域通貨のようなものをふるさと納税の返礼品にすることも検討しています。

【参加者E】

私たち「阿寒湖温泉楽しいことやらかし隊」は、観光客が集まる街を作るには、住民の人たちが元気で楽しく過ごせることが1番じゃないかと思い、阿寒湖温泉の住民の方を対象に楽しいことをやらかしています。10年後の阿寒湖を担う子どもたちに今何をしてあげられるのかを話しながら、様々なイベントを実施していますが、その際に開催する公園や広場、子ども達が自由に遊べる場所がありません。

まりむ館前にある遊具もしばらく使えないままであり、滑り台は使えるようですが、黄色いテープが邪魔をしているため、危険な状態にあります。使えないのであれば撤去をしてほしいと考えます。また、周りの芝生も鹿が増え、鹿糞だらけです。そこにマット引いてお茶しようとは思わないので、芝生もできれば撤去して頂き、ポッケ遊歩道のような舗装にしてほしいと思いますので、ご検討お願いします。

【市長】

住んでいる人が「良い」と言わないと他の人が「良い」とは言いません。釧路市の夕日は世界3大夕日と言われているため、その点についてのPRや釧路市の夏は「寒い」と言われてきましたが、マイナスのイメージがあるため「涼しい」という表現にするなど、工夫をしています。自分たちのまちの素晴らしさをどんどん伝えていくために、一緒に進めて行きたいと考えています。

その上で、遊具が壊れたままになっていることについては、申し訳ございませんでした。

【阿寒町行政センター長】

まりむ館前の遊具については、去年の8月に一部腐食部分が落下したため、立ち入り禁止にしている状況です。現在、調査している所でありまして、中の浸食状況がだいぶ進んでいるようなので、業者の方に相談し、費用がどれくらいかかるか検討している所です。進め方につきましては、見積もりが見えてきた段階で、地域の方に説明をしながら進めていきたいと思っております。お時間かかってしまい申し訳ありませんが、もうしばらくお待ちして頂ければと思います。芝生の鹿糞については、支所長から説明します。

【阿寒湖温泉支所長】

私は今年の4月に着任し、地域の方々から鹿がまりむ館の前に多く出没するという話を受け、4月、5月以降、毎日芝生を巡回し、糞は取り除いている状況です。

土日は確認できないため、翌月曜日に処理しています。子どもたちも平日遊具で遊んでいるため、衛生面も考えて支所の方で対応させていただいております。

【市長】

市役所は物事動かすのに1年単位でかかるため、時間軸を変えようと考えています。そこで、全ての検討時間を3か月として進めています。なぜ3か月かということ、釧路市の施策を決定する議会は年に4回あり、2月、6月、9月、12月に実施されているためです。

まりむ館前の芝生については、皆さんからの意見があり芝生にしたのか、どのような意見交換をしたのか。芝生にした理由が重要と考えます。

【参加者E】

私も聞いた話ですが、住民は鹿も出没するので、芝生はいらないと話していましたが、市役所が避難所になるのでテントを建てなければならず、ペグが打てるように芝生にしたと聞いています。

【市長】

ルールを行政の中で決めていくのか、地域のことなので地域住民の中で設計していくのかが重要であると考えます。そのような背景があるのであれば、市の責任といえます。今後の対応については検討し、3か月で出来るか分かりませんが、急いでどのように進めて行くのか、検討・報告しながら進めます。

地域の人がまわりのことを褒めたたえ、子ども達に伝えていくことは重要だと思えますのでよろしくお願いします。

【参加者F】

私は、「阿寒湖温泉楽しいことやらかし隊」として活動しており、阿寒湖教室花柳喜衛会という日本舞踊の会の事務局としても活動しています。稽古は月に2回実施し、披露に向け1年かけて子ども達6名、大人1名が頑張っています。先生は厚岸町から通っており、泊りがけで教えていただいています。毎年、9月の阿寒岳神社例大祭と、10月にまりむ館で開催される敬老会を披露の場としていました。コロナ禍では実施できませんでしたが、今年こそ開催できると1年かけて準備を進めていたのですが、2週間前に担当者から敬老会は阿寒本町でのみ実施すると連絡がありました。どのような話し合いの中で、阿寒本町で開催されることとなったのでしょうか。

【阿寒町行政センター 保健福祉課長】

敬老会については、令和2年度から令和4年度にかけて中止となっておりましたが、今年度は実施に向けて進めているところであり、現在、連合町内会や老人クラブなどの地域を代表する方を中心とした実行委員会の中で、実施方法や催し物の内容などを議論しているところです。4年ぶりとなる今年度の開催につきましては、今まで各町内会の婦人会が中心となり4地域で実施していたものが、各地域とも組織の高齢化が進み、協力をしていただける方が少なくなっており、地域ごとでの開

催が困難とのご意見を踏まえ、最終的には公民館1か所で、飲食を伴わない形式での開催が決まったところでもあります。実施内容は調整中ではありますが、実行委員会において1か所開催とする方針が確定したことから、まずは阿寒湖温泉での開催が難しいという状況を、早めに連絡させていただいたところです。

【市長】

生涯学習の理念にもありますが、様々なことを継続するためには一生懸命努力するだけではなく、発表する場所があり、褒める場所があることが重要であり、敬老会が発表の場所であったということでありました。

釧路市内では藝術祭を文化団体連絡協議会が実施しております。生涯学習センターを中心に様々な団体の発表の場を設けており、以前には阿寒本町からの参加もありました。発表の場は必要であり、重要な地域のコミュニティーを確保するため、知恵をだし、市も考えてサポートしていきたいと思えます。